

平成19年3月30日

平成18年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 幼年発達支援

氏名 橋川 喜美代

プロジェクトの名称	実践的指導力を高めるアクションリサーチ型 教員養成カリキュラム（ネイチャー・アクティ ブ・プログラム）の構築 一キャンパス内多目的広場を中心とした自然 環境の中で展開される幼児の豊かな遊びへの かかわりを通して一	配分 予算額	1,311,000 円
プロジェクトの概要	<p>本研究の第1の目的は、6名の1年生が本学多目的広場において、附属幼稚園3～5歳児とかかわる中で、子どもや環境への理解を深めながら、共感力・省察力・研究力等、実践力の基礎を培う過程を辿ることにある。平成18年10月、11月、平成19年1月、2月に実施した4回の活動は、①3歳児とのネイチャー・ゲーム、②落ち葉等、秋の自然物を使った5歳児との活動、③5歳児に凧の作り方を指導する活動、④火を熾し、ポトフを5歳児と共に作る活動、⑤お別れ遠足において幼児と共に自然を楽しむ活動、である。これらの活動が示すように、自然に恵まれた本学の環境を生かした計画を立てた。</p> <p>第2の研究目的は、同伴される保護者や幼稚園教員へのインタビューを通して、本研究による自然体験が幼児に及ぼす影響や学生の実践力育成に対する影響を明らかにすることにある。</p>		
成・果の概要	<p>(1) 4回の活動を通して学生に育まれた成果</p> <p>1) ネイチャー・ゲームの中で、学生たちは自らの想像と3歳児の発達の程度や関心・興味に戸惑いながら、保護者や幼稚園教員、さらに3年生たちに助けられ、楽しく遊べたことに満足していた。</p> <p>2) 「落ち葉を使って遊ぼう」という主題のもとに立てた指導案が計画通りには進まなかったことで、準備不足の反省に加え、幼児の興味や意欲を引き出す方法に気づき始めた。</p> <p>3) 凧の作り方を説明しようとする学生たちに、5歳児たちは「早く作りたい!」と要求する。しかしその要求通りにはスムーズに説明は進まない。そうしたジレンマを経験する中で、学生たちは説明の提示の仕方や自らの活動への思いを省察し始める。</p> <p>4) 高島会館を使ってのポトフ作りは、指導案もないまま活動に取り組み、その準備不足から軌道を逸した自らの動きに焦りながらも、学生たちは幼児たちの思いに心を馳せ、その思いを実現するための準備や方法を考え始めるようになった。そして、幼児たちから学ぶことの重要性に気付いたようである。</p>		